

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第1学年（男子48名、女子54名、計102名）
- ・実施教科 英語（区学力調査は実施がないので、定期考査および1学期成績からの実態把握とした）

英語科

1 結果の分析

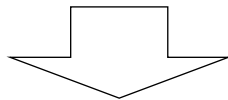
(1) 結果の概要〔観点別の達成率の比較(%)、各観点を100%に換算した値〕

○全体的な状況の説明

- ・『関心・意欲・態度』94.1%、『外国語の表現』66.7%、『外国語の理解』74.8%、『知識・理解』79.3%の正答率であった。このことから、学習への意欲は高く、理解力・知識力が特別低いとは言えないが、『外国語の理解』が、他の領域の平均と比べて16ポイント低いことが分かった。
- ・1年生の1学期ということもあり、発表活動やインタビュー活動時には小学校での外国語活動で見聞きした英語が多く使われ、口頭での表現活動は活発に行われておりおおむね良く出来ていた。一方で初めて英語を書く生徒の中には苦手意識をもつ生徒がいた。そのため『外国語の表現』の力を計る筆記テストで点数が伸びず、今回のような結果になったと推測できる。
- ・『外国語の理解』の到達点が『知識・理解』と比べて若干低いのは、語彙や文法、文脈を考えながら英文を読むことに慣れていない生徒がいたためと推測できる。これらの結果から、言葉と文法などのルールを十分理解した上で言語を活用していく能力を養う活動の必要性がある。2学期以降は『4技能』を総合的に高め、『理解』を深める授業を展開していく。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・『外国語の表現』に対する到達点が高他の領域の平均に比べると、16ポイントほど低く、文法や文脈を考えて書く力が弱い。・『外国語の理解』においては、言葉と文法などのルールを理解した上で英語を活用していくことに慣れていない生徒がいる。	<ul style="list-style-type: none">・英語を活用する際に、漠然と読んだり聞いたりしており、文法の知識や文脈をあまり考えずに活動している生徒がいる。・書く際も学んだルールを活用しようとしていない生徒がいる。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

『外国語の理解』と『外国語の表現』の育成	<ul style="list-style-type: none">○言語活動の前で意識的に単語や文法の知識を活用するような指導を行う。○内容をより深く理解するよう意識的に英語を『読む』練習を増やす。○『4技能』をさらにバランスよく養うような活動を授業に多く取り入れる。
----------------------	---

(2) 改善策に対する検証

- 『外国語の表現』に関しては定期考査や日常の小テストを通して学習内容の定着度を把握し、他の領域と同程度（75%程度）の達成率を目指す。
- 単元終了時に「Can-do リスト」を活用し、行動観察とあわせて生徒の「有能感」を推測し、『4技能』をバランスよく学習する態度が養われているかどうか検証する。

以上2点を、全生徒対象の『授業アンケート』をとおし、検証し、さらに改善していく。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第1学年（男子名49、女子55名、計103名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科・英語

国語科

1 結果の分析

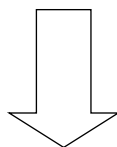
(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・領域別では、話すこと・聞くことの分野で目標値に達していない問題が見られた。会話中の敬語の使い方だったり、話し合いの内容を新聞にまとめたりすることを問う問題である。
- ・会話の中に出てくる敬語の間違いを探す問題では正答率が53.9%と低かった。
- ・書くことでは、作文を書く際に立場を明らかにしてから書くということが徹底されていなかった。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・会話の中に出てくる敬語の間違いを探す問題では、正答率が53.9%と低かった。（区は59.31）・話し合いの内容を新聞にまとめる際の割付を問う問題の正答率が49.0%と低かった（区は44.5）。・文章の表現の特徴を捉える問いの正答率が37.3%と極端に低かった。（区は35.6）・作文を書く際、立場を明らかにするという項目についてできてない生徒が58.3%であった。（区は55.2）	<ul style="list-style-type: none">・敬語についての知識を正しく身に付けさせ、練習問題を解かせる必要がある。・話し合いが書かれている文を見て、何について語られているのか考えられるよう会話文に慣れさせる必要がある。・様々な文に触れ、その特徴を比較できるような経験を積ませることが課題となる。・作文を書く際、立場を明らかにすることを意識させる必要がある。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

敬語の学習	・敬語について学習すると同時に、毎日の生活でも適切に使えるように指導する。
話し合い・対談等の学習	・話し合いや対談等の文体に慣れさせ、内容の分析等ができるように演習する。
作文指導について	・作文を書く際、最初の課題について着目し、それを解決しながら書く習慣を付けさせる。

(2) 改善策に対する検証

- 定期考査や普通の授業のテスト等で70%以上の達成を目指し、力の定着を図る。
- 作文を書かせる際、立場等を明らかにしてから書くことを70%以上の達成を目指し、意識させる。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第1学年（男子48名、女子54名、計102名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科

社会科

1 結果の分析

(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

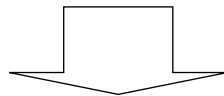
- ・『わが国の歴史』の領域では、本校が58.3%、台東区が55.6%、全国が60.2%で区平均との差は+2.7ポイントである。
- ・『わが国の政治』の領域では、本校が48.7%、台東区が47.5%、全国が49.6%で区平均との差は+1.2ポイントである。
- ・『世界の中の日本』の領域では、本校が76.8%、台東区が67.7%、全国が66.2%で区平均との差は+9.1ポイントである。
- ・『わが国の歴史』『わが国の政治』では、区の平均を上回っているものの、全国平均及び目標値を下回っている。

観点別正答率では、区平均を全て上回っているものの、全国平均では関心・意欲、思考・表現、資料・技能で+1ポイント、知識・理解は-1ポイントである。

全体的考察は基礎的な知識は身に付いている生徒が多い。今後はこの成績を維持するとともに、知識の定着と理解力の向上に力を注ぎ、視覚による授業展開もあわせて行い、興味関心を高めていく。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・明治以降の歴史的事象が定着していない。・国会・内閣・裁判所のしくみが十分には理解されていない。	<ul style="list-style-type: none">→人物・出来事・文化の関連性をもたせる必要がある。→国会・内閣の役割、裁判員制度についての基礎知識を身に付けさせる必要がある。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

知識・理解の向上	<ul style="list-style-type: none">・デジタル教科書とDVDの活用により、視覚からの授業を活用した授業を展開する。・比較対象となる事柄や人物を取り上げ、重点的に指導する。
思考力・表現力の向上	<ul style="list-style-type: none">・資料やグラフの特色や違いを考えさせ、その内容を文章でまとめる課題を提示する。・調べ学習を個人とグループで活動させ、地図を描いてまとめる力を養う。・毎時間学習した内容と配布されたプリントを組み合わせた自分専用のノート作りをさせる。

(2) 改善策に対する検証

- eライブラリーを授業中のまとめや家庭学習に活用して確認することにより、10%ほどいる学力の定着が十分でない生徒を5%台にする。
- 地図を使用している問題を作成し、80%の生徒がまとめられるようにする。
- 説明問題を作成し、70%の生徒が文章でまとめられるようにする。
- ノート点検の際に、工夫が凝らされている部分を他の生徒に紹介し、効果的なノートのまとめ方を身に付けさせる。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第1学年（男子48名、女子54名、計102名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科

数学科

1 結果の分析

(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・領域別で区平均と比較すると、4領域中3領域において区平均を上回っている。特に数量関係の領域においては、4.4ポイント上回っており、比例・反比例をはじめとする2つ以上の数量の関係を捉えられる生徒が多いことが考えられる。しかし、量と測定の領域においては、1ポイント下回っており、面積や体積を求めることが苦手な生徒もいることがうかがえる。
- ・観点別では、4観点すべてにおいて区平均と全国平均を上回っている。特に、数学への関心・意欲・態度と数学的な見方や考え方の2観点においては、区平均より約4ポイント上回っている。他の2観点においては、全国平均と0.2~0.8ポイントしか差がなく、数学的な技能と数量や図形などについての知識・理解の向上が求められる。
- ・問題別では、目標値を上回っている問題が多いが、図形や量と測定の領域の問題で目標値を大きく下回っている問題が見られる。複数の図形を組み合わせたものから面積を求める問題や、時間の単位の違う速さと時間から道のりを求める問題では、約10ポイント目標値を下回っている。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・図形分野における知識の不足と、体積や面積を求めるための技能が不足している。・数量や図形などに関する知識を基にした、数学的な技能の向上が求められる。	<ul style="list-style-type: none">→単純でない図形や立体について、構造を正確に捉えてイメージする力が不十分である。→公倍数や公約数、平均などの言葉の意味を正確に理解し、それを求める力が不十分である。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

図形分野の知識、技能の向上	<ul style="list-style-type: none">・学習の前に、小学校で学習した既習事項についての復習を行う。・今回不十分であった図形分野の知識について、深く関連する内容を第1学年でも学習する。・日々の宿題の中でも、既習事項からも出題して、知識の定着を図る。
数量に関する知識理解の向上	<ul style="list-style-type: none">・小学校で学習している用語について、関連する内容を授業で扱う際に、意味が正確に理解できているかを確かめながら授業を進めていく。・答えを求められるだけでなく、その答えを求めるための過程を大事にし、数量に関する知識が正確に理解できているかどうかも見ながら授業を進める。・答えを導くまでの途中式などをしっかり書く指導をしていく。

(2) 改善策に対する検証

- 授業内で既習事項に関する発問に対する回答や、小テストなどでの既習事項の出題を通して、知識の定着度合いを検証する。
- 小テストでは8割以上の正答率を目標とし、目標を下回った設問について原因を分析し、今後の指導に生かす。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第1学年（男子48名、女子54名、計102名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科

理科

1 結果の分析

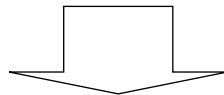
(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・教科全体の正答率は区平均を3.9ポイント、目標値は1.6ポイント上回る結果となった。基礎は目標値と同等であったが、活用については6.7ポイント上回った。
- ・領域別では「物質・エネルギー」「生命・地球」のどちらの分野も目標値を上回ったが、問題別に見ると「電気の利用」に関しては8ポイントほど高いのに対し、「月と太陽」では6ポイント以上下回っており、単元別の課題が見えた。
- ・観点別にみると、「知識・理解」以外の3観点については目標値を3～8ポイント上回っているが、「知識・理解」は2.6ポイント下回っており、基礎知識の定着に課題があることが分かった。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・誤答分析の結果から、基本的な理科用語のいくつかが答えられておらず、基礎的な学習事項の定着に課題があることがうかがえる。・「動物のからだのつくり」「月と太陽」の単元については他に比べて正答率が低く、知識が十分定着しているとは言えない。	<ul style="list-style-type: none">→「気管」「水蒸気」「断層」などの教科書に載っているような基本的な理科用語が十分定着しているとは言えないので、単元ごとにきちんと押さえる必要がある。→「からだのつくり」や「月・太陽・地球の見え方」について図と関連づけて考えることが十分できていない。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

基礎的な学習事項の定着	<ol style="list-style-type: none">① 基本的な理科用語について、単元ごとに列挙して確認させ、知識として正しく理解できるようにする。② テストや授業中に発問して確認するなどして、定着を図っていく。
知識と図表との関連を図る	理科用語をいくら習得しても、図表を活用できていないと知識が科学的な思考や表現にと結びついていかない。そこで、「太陽・地球・月の位置関係と見え方」「からだのつくりとはたらき」などをまとめたプリントを作成し、図表と照らし合わせ関連付けて知識を定着させる。

(2) 改善策に対する検証

- 小テストにおいて理科用語の定着を図る問題に取り組ませ、正しく理解しているかどうかの到達度を評価する。その結果を生徒にフィードバックし、不十分な点については繰り返し学習していく。
- 定期テストで図表の情報を正しく読み取り、解答するタイプの問題に取り組ませる。作図や記述問題も取り入れ、用語の意味だけでなく、科学的かつ多面的に事象を捉えることのできる力を身に付けさせる。到達度は評価に加味し、生徒の動機付けにする。